

No. 1

約一か月と一週間の間、貴校には大変お世話になりました。おかげさまをもちまして、卒業日の翌日に見事運転免許証を手に入れることができました。これも一重に貴校の指導員の先生方、そして特に私のアシスタントの後藤蒼伸先生、更には送迎バスの運転手の方々や受付の方々など貴校の全ての方々のおかげであり、大変感謝しております。

さて、今回送付されてまいりました書類の記入事項の例示に沿って書かせて頂きたいと思っております。

(高松自動車学校についての感想)

まず、貴校の指導員の先生方や送迎バスの運転手の方々、そして受付の方々の我々教習生に対する態度や雰囲気等についての感想を書かせて頂きたいと思っております。

鷺原大地

私が、他教習所を卒業した友人達や知人の方を介して伝えている事情と貴校の様子とを比較しますと、明らかに違いを感じます。(但し、予め断っておきたいのは、限られた友人や知人の方達の経験談を基にしては、まあ、偶然性が高く、また限がしも正しいとは限りません。以上の事を前提としてお話をさせていただきます。)

比較して

まず第一に「教習指導員の先生方について書かせて頂きます。私は運転をあるに当たって一番大切に思うことは、申し上げるまでもありませんが、人命尊重の精神に基づいた安全運転であると常々思っており、運転をあるに際しては貴校の先生方に教わった安全運転には欠かせない運転方法や安全確認

No.2

の手順、そして交通法規などを遵守しています。

貴校の先生方は、ある操作やある運転手順が「なぜ」必要なのかわかり易く丁寧に教えて下さいました。(具体例:

シフトレバー横の

A/T車で「L」レンジにシフトダウンする際に「なぜ」誤作動防止の為にボタンを押さなければ駄目なのか? 「OD」ボタンの役割とは? 店の出入口付近で信号待ち等の為、停止しなければいけない場合には合図を出している場合は一旦消すこととその理由...など)

そして、こちらからの質問に対しては真摯に受け止めて下さり、逐一丁寧に指導して下さいました。(具体例:縦列駐車や方向転換の際に、車が停止しているときにはハンドルを切るの希望がないとの理由...など)

また、こちらが固くなって

運転あることのないように停止中などに話かけて下さるなどリラックスできる車内環境を作って下さりもしました。

上記の事で私が言いたいことは、貴校の先生方は「運転という行為を甘く考えることのないようにきめ細かく指導して下さい」適確なアドバイスを下さる反面、私のような教習生が慌てて取り乱すことのないように配慮して下さい」ということであり、言葉だけで言い表せないような感謝の念を抱いています。

第二に「送迎バスの運転手の方々のとりわけサンポート方面のメインのドライバーの方(お名前を知らなくて申し訳ありません)」について書かせて頂きます。メインドライバーの方には非常にご好意にしていただけ、他の教習生の方を待つ為の停車時間に楽しい会話が弾んだりある等、

No.3

短い距離とはいえ、
教習所とサンポートの
間を、リラックスできる空間
にして下さるとともに安全
運転で結んで下さり、その
お手柄に大変感謝して
います。

第三に「受付の方々」
について書かせて頂きます。

受付の方々について、一番
印象に残っている事は、
バスが到着し校舎に入
った際に、受付におられる
全ての方々が「いらっしゃい
ませ」と声をかけて下さるこ
とです。

その理由としては、これま
での私の教習所に対する
イメージは、多くの教習所
が「自動車学校」という
名称を使用しているためか、
文字通り「学校」というイメ
ジが強く、自分は「生徒」
という立場にあたると思っ
ていたからです。貴校の受
付の方々のおもてなしには
あたかも「お客様」を迎え
入れる「商店」のような雰

囲気が感じとれ、貴校
の「暖かい雰囲気を作り
出すために努力する」経
営方針が強く感じとれました。

四番目は「指導員の
先生との会話の内容」に
ついてです。印象に残っている
それは、卒検前のみぎわこ
めの時間に、その時間の
担当の指導員の先生(山田
先生であったと思います。)が
こちらからの質問に対して
丁寧に説明して下さいた
ことの内容についてです。

なぜ印象に残っているか
といえは、その説明して
下さった内容が卒検の時
に生かされたからです。

質問は一路上で
前方にある駐車車両などの障害
を回避する際に、場内と物
同様にミラー確認と目視
に加えて合図を出す場合と
合図までは出さなくてもよい
場合と両方のケースがあるがその
2ケースを区別する判断基準
は何ですか? — というものであ
るがその答えは少し頭を使って

No.4

みれば"至極当然な理由からなのであるが、その様な事でも先生はわかり易く親切に教えて下さいました。

(教習中のエピソード)

ここからは、教習中のエピソードについて印象に残っていることを述べさせて頂きたいと思っております。

路上教習時の話ですが、私は路上検定・教習の時に走るコースが示された教習所配付の地図に、交差点の名称や地図に示されていない目標物、そのほかには運転する上でのその地点における注意点などがかなり多くの書き込みをしていました。指導員の先生方のアドバイスや高松市の都市地図などを参考にして書き込んだ訳ですが、アシスタントの後藤先生をはじめ他の数名の先生方も大変驚かされていました。エピソードについてのみお書きするのであればここまでなのですが、私に

とってこのことについては今でも正しかったのかどうか分からないことでは。

それは何故か？—やはり、免許を取得すれば教習所の検定用以外のコースも走ります。いや、むしろそのコース以外の道をはる事がほとんどです。あると当然先のコース以外の道で、とっさの認知・判断とそれに応じた操作が"必要な場面"が"必要な場面"が頻繁におとされるでしょう。そのような可能性を見据えたとき、予めコースの目印や注意点を覚えてパターン化し、日頃の技能教習や検定に対処するやり方が"正しかったのか否か？—免許取得は最終目標ではなく車社会の

(ゴール)

仲間入り(スタート)です。—

それを考えると今でもわかりません。余談ではありましたが"エピソード"に関連することまで書かせて頂きました。

(免許取得時の感想)

No.5

ここからは、免許
取得時の感想について
述べてさせていただきます。

あまり機敏な方では
ない私が、AT限定免許
とはいえ修検や卒検
に一発で合格し、効果
測定や仮免、本免学科
試験にも全て一発で合
格したのは間違いなく
貴校の充実した教習指
導とサポート体制のおかげ
であると確信しております。
特にアシスタントの後藤先生
には大変感謝しております。

(一般ドライバーの運転に)

ここからは、一般ドラ
イバーの運転について
感じたことについて書か
せて頂きます。

免許を取得して間が
ない私は細かい交通法
規までまだ頭の中に残っ
ている為か、頻繁に交通
法規を守っていない一般
ドライバーのいい加減とも
とれる運転が目につきま
す。もちろん、彼(彼女)達は

の中に

初心者運転期間中
の私などから見ればバ
ランともいえるドライバー
も多くいることでしょう。しかし、
運転が上手になったから
といて、いい加減に運
転しているドライバーを見ると
強い 横りを感じます。

このような私のように
正義感が強すぎるのも
考えものであることは私
自身も十分自覚しております。
父からも「あまり腹ばかり
立てていると(今の)自分まで
事故を起こしてしまう」と
指摘されました。

私もこれからは事故
防止の観点からも、
自分には常に厳しくあれ
ども、他人の違反には
寛容になれるよう反省し、
引き続き安全運転に
努めていこうと思っております。

しかし、依然として
交通事故で命を落と
される方は日本全国で
1年間に5000人以上も
おられることも事実であることは

No. 6

学科教習でも教わられた
「本来なら『ゼロ』にあべき
教習です。」

もちろん、自動車や
原付の方だけに責任
があるケースばかりではない
でしょう。よく世間でも言
われている通り「自動車
のドライバーも車から降り
れば『歩行者』です。した
がって自分(私)も含めて
歩行者や自転車のマナー
向上も必要不可欠です。

けれども自動車は
極端な例を出せば
「普通の人か、相手が
プロレスラーであろうともカチ
であろうとも不幸な思いを
させてしまいかねない凶器」
であり、しかも「かなり身近
にある凶器」であることは
まぎれもない事実です。

私は、健常な方ももち
ろんのこと、幼い子供や高
齢者の方、そして身体に
障害を持つ方まで安心
して通行できる交通社会
の実現は、何らかの種類

の乗り物の免許を保有
する者にとって「責務」であり
「義務」であると強く思っ
ています。

軽微な違反を「この
程度なら大丈夫だろう」
と気にもとめないドライバー
は「なし崩し的に」重大な
違反や事故を起こすように
なるかもしれません。

ここは一つ立場を変えて
「交通事故による遺族の方
の立場」に立って考えてみよ
うと思います。

彼(彼女)達が「お書き
になられた手記を読む
と私は胸が痛くなります。
彼(彼女)らの多くがお
しやることに次のようなこと
があります。

「亡くなった□□は二度
と返ってくることはないのに、
交通ルール違反を犯した
尊厳 死亡事故を起こした
ドライバーは交通刑務所
を出所した後はおうおうと
生活しているのかと思うとくせしく
やるせない気持ちになる」と。

No.7

もちろん死と事故を
起こしたドライバーも受
刑者の身である間は
非常に苦しかったことでは
ない。

しかし「亡くなった方は
もう二度と返ってこない」
のです。また、亡くならない
までも、交通事故が原
因で一生後遺症に悩
まされる人だっています。

交通事故の遺族が
真に願っているのは、事
故を起こしたドライバー
が「刑務所」に入ることで
も、慰謝料を支払ってくれる
ことでも、免許取消に
なることでもありません。こ
れらの責任のとり方は大
変厳しくはありますが取る
ことは可能な責任であ
ることは学科教習でも
習いました。決して取
ることができない責任…
それは「亡く
なった方を生き返らせる」
ことです。そして、それは
悲しいかな遺族の方々
にとって唯一の願い

でもあるのです。このこと
も学科教習で習いま
した。

全てのドライバーには
このことを常に念頭に
置いてハンドルを握って
欲しいと願うとともに
私自身も運転に慣れ
たからといって漫然と
運転することのないよう
努めていこうと思えます。

長々とした文章となりまして
読まれるのが大変かと
存じますがどうかお許し

下さい。最後にもう一度
感謝の念を述べさせて
いただきましておわりとさせて
いただきます。免許取得
まで親身なご指導を賜
わり大変ありがとうございました。

担当指導員からのコメント

遠くから毎日来ていただき大変おたし思いますが熱心
に教習を受けてくださいましたね。沢山の感想ありがとう
ございました。これからは安全運転でがんばって下さい。



後藤